

文治主義による宋の成立と士大夫階級の役割

宋の創基、960年 太祖・趙匡胤 と 太宗・趙匡義 の武将の兄弟は、唐末の五代の乱世を生きぬいた。

- 科挙制度の徹底により、文官登用の道を整備。
- “経世済民”は、新たな士大夫階級の責務。
 - イ) 江南を基盤とした、経済の飛躍的な発展。
 - ロ) 社会の成熟。 中世より近世へ。市民社会の萌芽。
 - ハ) 出版文化の盛行。知識と情報の普及 等。
- 仁宗の時代（1023～1063）は、文明全体の意識の転換が行われた。

ex. 慶暦の治（1041～1048）

- イ) 古代の儒教思想 → 民族の正当な倫理として再確認。
- ロ) 儒家の政治哲学の実践。

→ 知識人による政治が希求され、且つ実践された。

即ち政治の指導者と文明の指導者の一致。

その担い手 范仲淹・富弼・文彦博・韓琦 等の新官僚群。

次いで 欧陽脩・王安石・蘇軾 等。

- 儒学の優位と、仏教・道教 からの訣別。
- 宋初に盛行した 無思想の美文学（西崑体）からの訣別。

ex. 古文復帰

“中国文明は文治主義である”は、この時代に生まれ定着した。

→ “古来そうあるべき”と説かれてきた文明の成熟した姿。

仁宗時代に認識された文明の転換は以後 1000 年間清朝の滅亡まで中国の文明を規定した。

(参考) ex.1 欧陽脩による古文。

ex.2 宋代の理想を以降 祖述。

ex.3 (宋史、王安石傳論)

文章と節行を以て、一世を高め、而して尤も道德と経済を
以て己が任と為す。 ※経済 = 経世済民

ex.4 邵雍（哲学者） 萬物に普遍なる理を觀照する→「觀物篇」

(冷静な心でみつめる)

日本への影響

江戸時代の儒学が祖述した原型は宋代の文明。

「名臣言行録」他

欧陽脩の散文を典型。

(典拠 宋詩概説 吉川幸次郎)